

第80回日本公衆衛生学会総会

2021年12月21日

自由集会5

第12回公衆衛生・公衆栄養分野における管理栄養士活動を考える会

# 10年後を見据えた 新しい自治体管理栄養士養成プログラムの提案

本自由集会は、

「厚生労働科学研究 公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士養成プログラム開発のための研究」  
と連動・連携して開催

# 令和2～4年度 厚生労働科学研究 公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士養成プログラム 開発のための研究

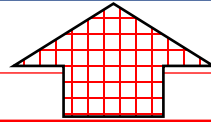
荒井	裕介	(千葉県立保健医療大学) *
飯田	綾香	(神奈川県立保健福祉大学) ※
磯部	澄枝	(新潟県新潟地域振興局健康福祉部) ※
岡本	理恵	(金沢大学) *
串田	修	(静岡県立大学) *
小山	達也	(青森県立保健大学) *
澁谷	いづみ	(愛知県一宮保健所) *
田中	和美	(神奈川県立保健福祉大学) *
諸岡	歩	(兵庫県健康福祉部健康局) ※
由田	克士	(大阪市立大学) #

#: 研究代表者  
\*: 分担研究者  
※: 研究協力者

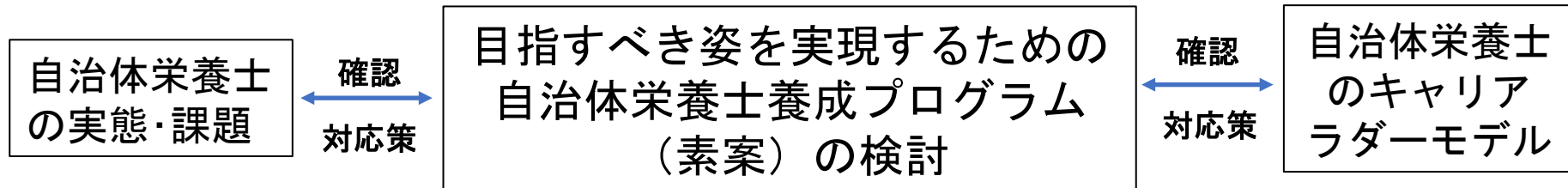
(敬称略)

年次経過ごとに：公衆栄養施策の高度化・質的向上/自治体栄養士の自己実現とステータス向上

プログラム完成後の展開



自治体栄養士養成プログラムの完成  
(分野や職位に応じた手引き・教材・実施方法等の調整を含む)

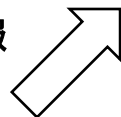


10年後に目指すべき自治体栄養士の姿

職能団体 →

← 関連組織  
学術団体

意見・希望・情報



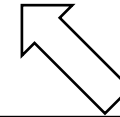
自治体勤務の他職種  
(医師・保健師など)

ニーズ

意見・希望

現職の自治体栄養士  
(都道府県・保健所設置自治体・市町村)

意見・希望・情報



現職の他分野栄養士  
(臨床・特定給食・研究など)

主な保健関連職種のキャリアラダー等に基づく人材育成プログラムに関する文献や各所資料のレビュー

現在行われている自治体栄養士向けの研修プログラム等に関する情報の整理

# どのように研究(自治体栄養士育成プログラムの開発)を進めるのか

- (案)その1

専門家の先生方と自治体栄養士の代表者の方々にお集まりいただき、あり方検討会(的なもの)を立ち上げ、大枠をつくり、詳細はワーキングで詰めて行く。

→ 先は見通しやすいが、きっと自治体栄養士の方々から、「自分たちの意見が反映されていない」「専門家の意見は、エビデンスレベルが低い」「それでは、取組のPDCAサイクルを回せない」等々の意見(苦情)が出るのではないか？



# どのように研究(自治体栄養士育成プログラムの開発)を進めるのか

- (案)その2 ←こちらを採用

悉皆調査(全数調査)を実施して、広く自治体栄養士の方々から意見や要望を拾い上げる。

→コロナ禍となり、回収率がどこまで上げられるのか不明。

非常に手のかかる仕事となる。

後で後悔しないよう、あえて、悉皆調査による意見や要望を拾い上げを選択する。



# 2020年度からの取り組み状況

- ▶ 主要保健関連職種のキャリアラダー等に基づく人材育成プログラム及び自治体栄養士の人材育成プログラムに関するレビュー
- ▶ 第79回日本公衆衛生学会総会 シンポジウム の開催
- ▶ 行政栄養士人材育成に関する実態調査（都道府県・保健所設置市・特別区に対する組織調査）
- ▶ 都道府県・保健所設置市・特別区に勤務する行政栄養士個人を対象とした調査
- ▶ 市町村（保健所設置市を除く）に勤務する行政栄養士個人を対象とした調査
- ▶ 2020年度実施分各種調査結果報告会・情報共有ならびに意見交換会

# 調査結果のポイント

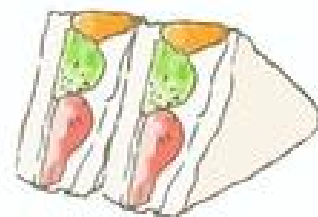
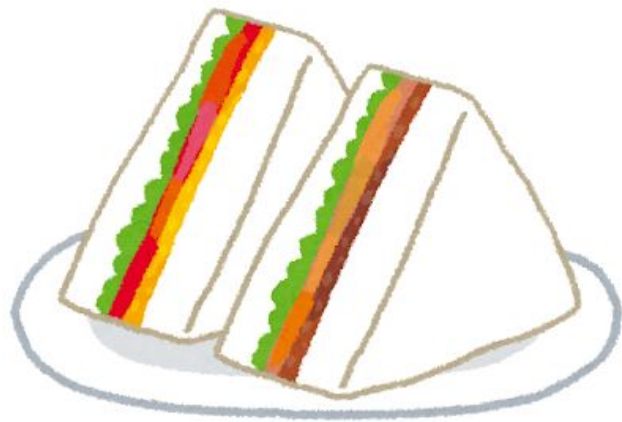
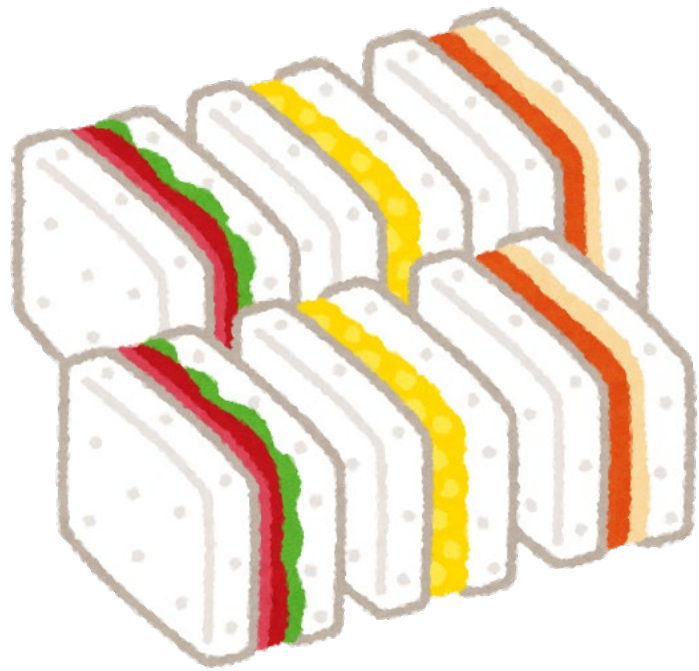
- ▶ 組織的・計画的な人材確保・人材育成の取り組みが進んでいる自治体は少なく、その実態も自治体間でかなりの差が生じている。
- ▶ 自治体栄養士の養成プログラムは、新任期以外、ほとんど系統的なプログラムとはなっていない。
- ▶ 自身が将来的に目指したい職位は、監督職41%、管理職10%であった。
- ▶ 同じ自治体で10年後に最も高い職位となる者が得てほしい職位は、監督職53%であった。
- ▶ 将来的に栄養のスペシャリストとして進みたい者と、公衆衛生全般のゼネラリストとして活躍したと希望する者の両者が存在している。
- ▶ 日常の業務内容に関して、自信が持てないと感じている者が相当数認められる。

# 人材育成プログラムを立案するための ポイントの整理

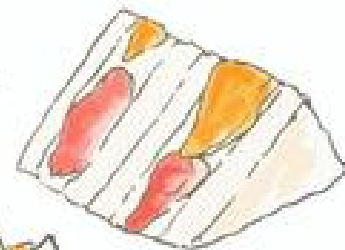
- ▶ 本人が望む方向性によって、**学ぶべき内容は必然的に異なる**。
  - スペシャリストとゼネラリスト
  - 係員、監督職、管理職
- ▶ 行政栄養士が自信を持って日々の業務を担えるようにするための育成プログラムの設定（**自己効力感**を高めるプログラム）。
- ▶ 各種団体、研修機関、大学等が提供しているプログラムを有効に活用・連携する。
- ▶ Web等を活用した**遠隔研修プログラム**も設定する。
- ▶ 既存の認定資格制度や大学院等への進学によるスキルアップとは別に、個人が特定の研修プログラムを受講したこと等を第三者機関が目に見える形で証明できる仕組みの構築も検討する（**頑張ったことが認められる仕組みの構築**）。



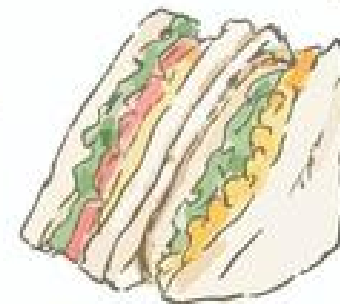
# 10年後を見据えた新しい自治体管理栄養士 養成プログラム仕組みのイメージはサンドイッチ



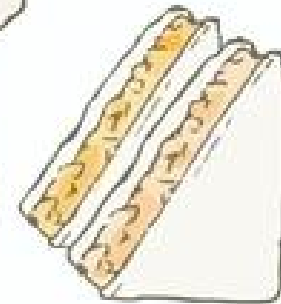
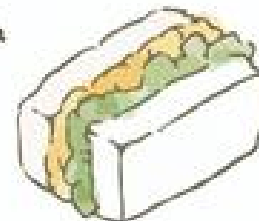
Fruit sandwich



Toast



Sandwich



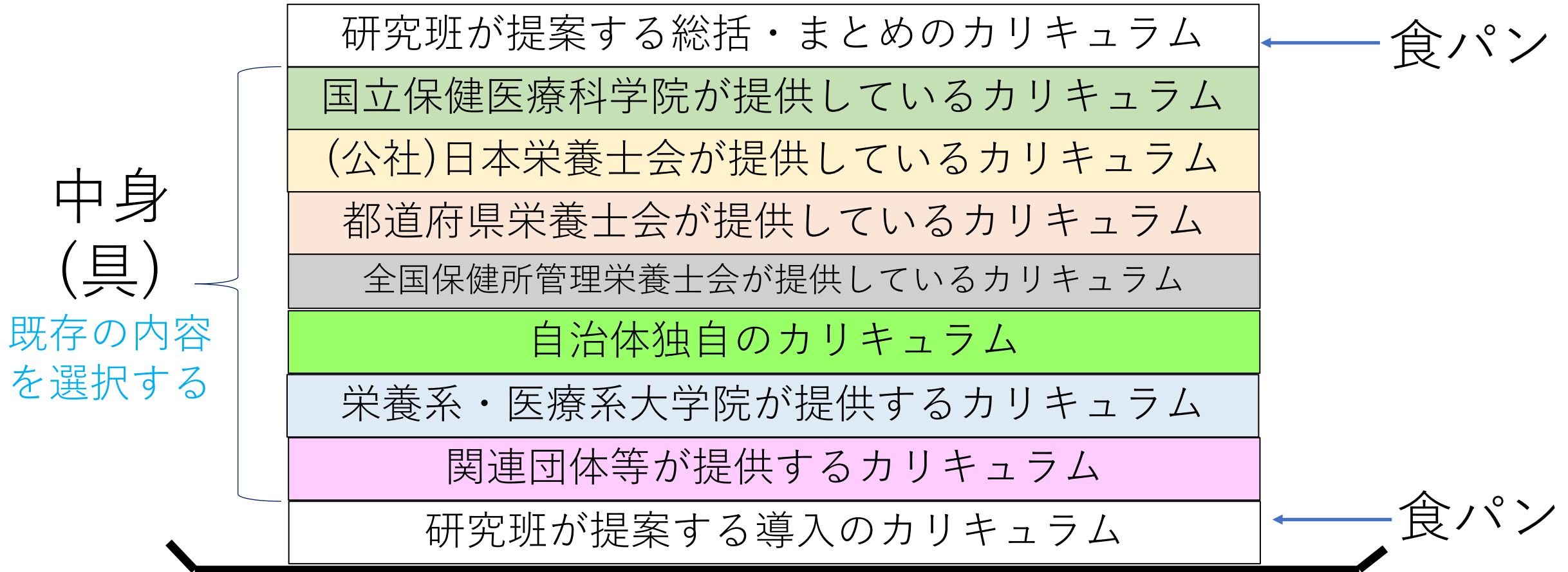
# さまざまなサンドイッチ



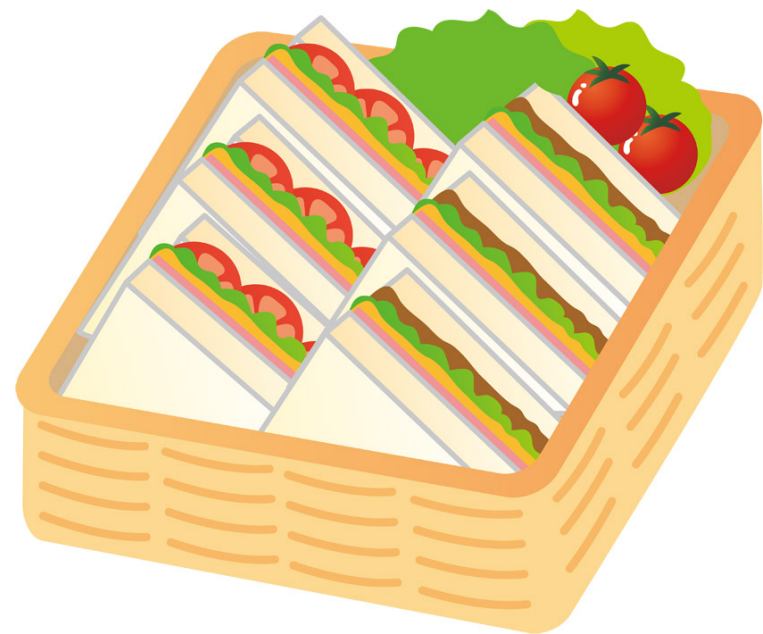
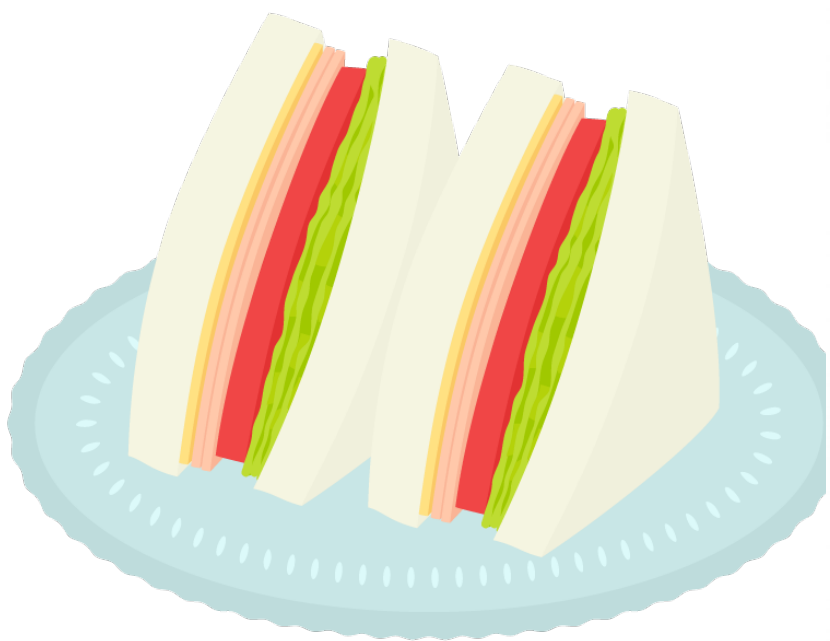
MENU	
Sサンド	000円
Mサンド※	000円
Lサンド※	000円
※ドリンクセット	+000円
※大盛り	+000円

- ① 採用時から勤務歴5年目程度までの新任期プログラム  
(仮称) **Sクラス**
- ② 勤務歴15年程度の中堅期をターゲットとした系統的プログラム  
(仮称) **Mクラス** 目指す方向性によりオプションあり
- ③ 勤務歴25年程度のリーダー期をターゲットとしたプログラム  
(仮称) **Lクラス** 目指す方向性によりオプションあり

研究班の調査で得られた問題点を導入と総括・まとめで対応し、既存のカリキュラムを選択しサンドイッチする



サンドイッチの組み合わせや盛り付け方により  
目指す方向へのスキルを高め接近する



# 情報提供

- ▶ 諸岡 歩 先生（兵庫県健康福祉部健康局健康増進課）  
新任期
- ▶ 磯部 澄枝 先生（新潟県新潟地域振興局健康福祉部（新津保健所））  
中堅期
- ▶ 田中 和美 先生（神奈川県立保健福祉大学栄養学科）  
リーダー期

# 進行

- ▶ 由田 克士 (大阪市立大学大学院生活科学研究科  
食・健康科学講座公衆栄養学)